助成事業実施報告書

令和 5 年　4 月　30 日

助成事業実施報告書

団体名 ふくおかこども食堂ネットワーク

代表者・役職名 氏名　代表　雪田 千春

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

体験的学習提供による子ども食堂・子どもの居場所の充実事業

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度

新型コロナウイルス感染症の影響が長期間に及ぶことにより、子どもたちにとって必要な体験が失われがちです。体験的学習を、地域の安心できる場所である子ども食堂・子どもの居場所で開催することにより、子どもを心身共に癒すとともに、子どもが元気に生活し、夢を持ち、それをかなえる希望を持つことができるよう導きたいです。中でも、芸術活動は、癒しの効果を高めることができるとともに、オンラインを活用することで子どもたちの活動を止めずに行うことができると考えます。関係団体の持ち味やスキルを活かし、地域の社会的資源を活用した豊かな場づくりをすることで、子どもが自身の能力を活かし、豊かな未来を思い描くことができるよう支援します。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度

＜結果＞オンライン工場見学 2 回（参加者 30 人）、食事作り（12 人）、言葉遊び（15 人）、オンラインフラワーアレンジメント 2 回（28 人）、おどり遊び 2 回（16 人）を行うことができました。

＜成果＞どの回も、子どもたちは最初緊張しているものの、始まると生き生きと目を輝かせて取り組んでいました。子ども食堂さんたち、もとても打ち解けた安心した様子でした。コロナでシュンとなっていた子どもたちの様子を見ているだけに、元気づけたいと思われたようでした。また、当初当団体だけで開催をする予定でしたが、企業様からのご提案をいただき、実現することができました。企業様からのご提案にはお弁当の提供など、食事がついていたこともあり、「またお願いしたい」という声が上がっています。マンネリ化しない、外からの刺激がある活動となりました。

＜社会的な変化＞

多様な子ども食堂・子どもの居場所があることが企業様に伝わってき始め、食品の提供や、ボランティアの提供、毎回違う内容での居場所づくりの提案が継続的に打診されるようになりました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字程度

今回の事業を行うにあたり、内容等の打診メールを子ども食堂さんたちへしましたが、コロナの影響は大きく、すぐに手は上がりませんでした。一カ所に集めるのが怖い、食品を扱うのが怖い、という思いがまだまだあるようでした。しかし、時間の経過とともに、企業様からのご提案に手をあげるところが増えてきており、こうした活動は今からなのだな、と感じました。子どもたちの表情を見ていると、とても生き生きとしています。もっとたくさんの子どもたちが取り組むことができるよう、次年度以降も体験的学習は、続けていこうと思います。また、内容も静かに行うものもあれば、体を動かすもの、外部の人と触れ合うものもあります。選択肢を増やして、活動を継続しようと思います。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

.

↑真如苑様からいただいたお菓子

↑フラワーアレンジメント

↑おどり遊び

↑言葉遊び。オリジナルテキストです。

↑企業様からのボランティア・お弁当提供を受ける子ども食堂・子どもの居場所の様子